

平成29年度 指導方法等の改善計画について (国語)

廿日市市立宮園小学校

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

【昨年度の課題】

- 文章全体を把握し、そこから関連のあるキーワードを使いながらまとめたり、読んだりすることに課題がある。
- 複数の資料を読み解き、その中から目的や意図に応じて必要な情報を取り出したうえで、それらを関連付けて論理的に説明する力に課題がある。

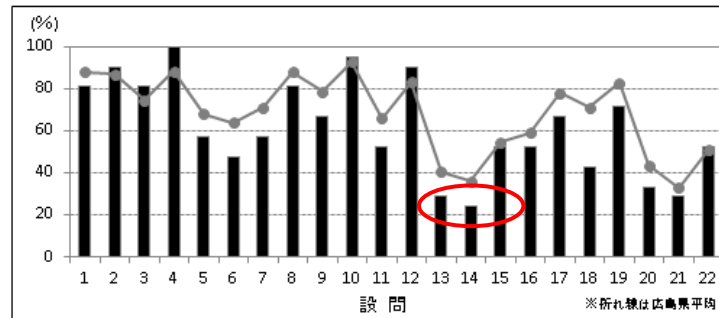
【取り組んだ事項】

- 説明文の学習で、段落相互の関係を考えながら読むように促し、キーワードを使って、要旨をまとめる活動を行った。
- 書く際には、自分が何を伝えたいのかを明確にしたうえで、資料の見直しをさせ、見出し・手がかりとなる言葉に印をつけ、必要な情報を取り出せるようにした。

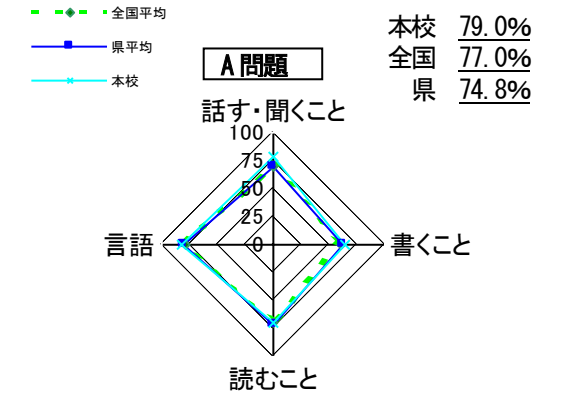
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率			
	教科全体	タイプI	タイプII
本校	61.5%	64.8%	46.4%
県	68.0%	71.5%	52.4%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率		
	A問題	B問題
本校	79.0%	64.0%
全国	77.0%	61.0%
県	74.8%	57.5%

「基礎・基本」定着状況調査結果から



全国学力・学習状況調査結果から



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

◎「読むこと」に関する中でも、「叙述を基にした想像（自分の考えの記述）」の通過率が23.8%と低かった。文を読んで把握する際に、登場人物の気持ちを考えるが、その本質がずれないように読み取る力が必要である。

◇知識、活用問題共に「書くこと」の平均通過率が低い(国語A63.5%,国語B58.9%)。中でも、手紙を出すときに書く構成の把握不足、複数の条件に合うように、目的や意図に応じて必要な情報を取り出して、整理して書く力に課題がある。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

◎読む活動では、問題が何を問われているかを意識させながら読むように促し、問題提示を意識するようにさせる。その際には、キーワードとなる言葉に線を引かせたり、段落相互の関係を考え、文をつなぐ力を付けたりするために具体的なポイントを指導する。それらのキーワードを使って、文字数以内に要旨をまとめる活動を行う。また、日頃から多くの文章を読ませ、短い時間で話の全体を把握するなど早く正確に読める力もつける。

◇他教科の中でも書く活動を取り上げる。手紙を書く活動を多く取り入れて、手紙を書く事に慣れるようにする。また目的や意図に応じて、自分が何を伝えたいのかを明確にしたうえで、文字数を区切って、自分の考えを書かせ、条件から反れていないか見直しをさせる。

来年度の目標値

- 「読むこと」領域の叙述を基にした想像を問う問題の平均通過率を35%以上にする。
- 「書くこと」領域の平均通過率を65%以上にする。

中間検証①(H29.12)

中間検証②(H30.2~3)

最終検証(H30.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標(方法)	到達目標値	実施後数値
何を問われているのか、意識しながら読むように促す。また、短時間で文を読み、登場人物の気持ちを考えさせたり、必要な情報をつないで、文を作る活動を行う。	全学年	叙述を基にした想像を問う過去問題の平均通過率(4~6学年)	25%	47.8%	文章の中の言葉を使わずに、解答している児童が多かった。そのため、正確に伝わらない文になっていた。文章の中の言葉を使って解答するように指導していく。	叙述を基にした想像を問う過去問題の平均通過率(4~6学年)	30%	59.3%	目標値は概ね達成できた。しかし、学年によって得点に開きがあった。引き続き、文章の中の言葉を使って解答するよう指導していく。	H30「基礎・基本」定着状況調査の叙述を基にした想像を問う問題の平均通過率	35%	
手紙を書く活動を他教科でも多く取り入れ、書く事に慣れさせる。また条件から反れないように、自分の伝えたいことを含みながら文を書き、見直しをさせる。	5~6学年	過去の全国学力・学習状況調査の「書くこと」の問題で平均通過率(5・6学年)	55%	46.5%	2つの条件を含んだ文章を書く問題では、1つのみの児童が多く見られた。しかし、全く書けていない児童は9%と低かった。引き続き取り組んでいく。	過去の全国学力・学習状況調査の「書くこと」の問題で平均通過率(5・6学年)	60%	62.7%	概ね目標値も達成できた。学期末に地域の方や卒業生に手紙を書く機会が多かった為、書くことにも慣れてきたと思われる。	H30「基礎・基本」定着状況調査の「書くこと」の問題での平均通過率	65%	

平成29年度 指導方法等の改善計画について〔算数〕

廿日市市立宮園小学校

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

【昨年度の課題】

- 文字と言葉を用いて説明する問題の通過率が低い。
- 示された事象や条件から単位量を求めたり、結果の大小比較をしることができない。

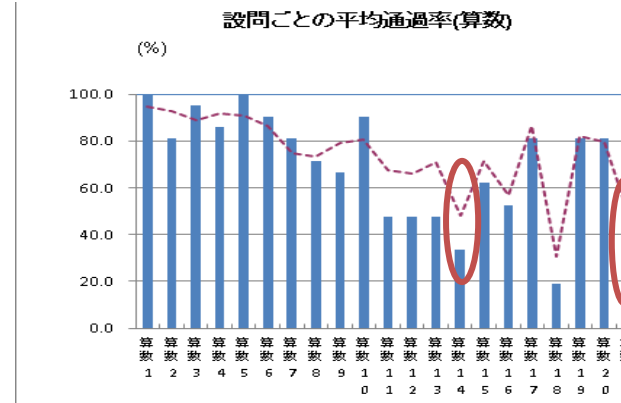
【取り組んだ事項】

- 自分の考えを説明する場面では、①問題解決の過程を式と言葉両方を使ってノートに書かせる。②説明例を板書する。③ノートのよい例を掲示する。
- 量の大きさの感覚を豊かにするために、数直線・表・グラフを用いて数の大小比較をさせたり、差を求めたりして系統的な指導をする。

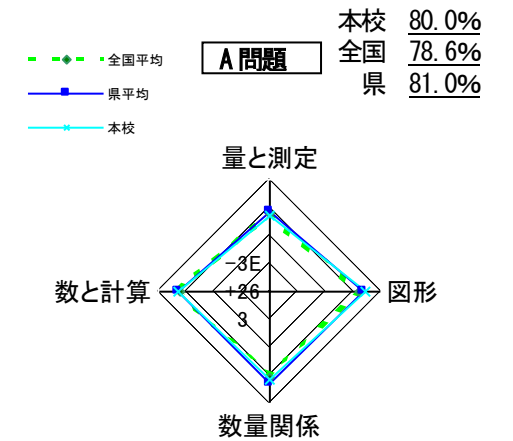
「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率			
	教科全体	タイプI	タイプII
本校	68.3%	72.0%	56.2%
県	74.3%	77.1%	65.4%

全国学力・学習状況調査 本年度正答率		
	A問題	B問題
本校	80.0%	50.0%
全国	78.6%	45.9%
県	81.0%	47.0%

「基礎・基本」定着状況調査結果から



全国学力・学習状況調査結果から



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎タイプI (72.0%) に比べ、タイプII (56.2%) の通過率が低い。図形領域の通過率は 33.3% と低く、作図を苦手としている児童が多い。コンパスを用いて平行四辺形を作図するためには、平行四辺形のどの性質を用いればよいのかに気付く必要がある。図形の様々な性質や特徴をおさえ、幾通りかの作図方法を理解できるよう指導していく。
- ◎◇問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、□や x などを使って立式することはできるが、その式を用いて考えたり、式や言葉を使って順序立てて説明したりすることはむずかしい。(◎19.0%, ◇10.8%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- ◎コンパスや三角定規などの道具の特徴に注目させ、その道具を使う意味を理解して作図させる。繰り返し体験させ、作図手順を習得する過程で特徴を覚えるようにする。同じ図形でも、図形の性質のどれに注目するかによって使う道具や手順が異なることに気付かせる。様々な方法での作図を体験させる。
- ◎◇答えの根拠となる説明を発表したり、ノートに書いたりする習慣を付ける。「まず」「次に」「だから」のキーワードを使うよう促し、順序立てて説明するための流れを理解させる。また、ペアやグループで話し合いをする際にも、キーワードを用いるように提案し、相手にわかりやすく説明する経験を積ませる。

来年度の目標値

- 図形に関する問題の平均通過率を45%以上にする。
- 「基礎・基本」定着状況調査で根拠の説明に関する問題の平均通過率を30%以上にする。

中間検証①(H29.12)

中間検証②(H30.2~3)

最終検証 (H30.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標 (方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方針	成果指標 (方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方針	成果指標 (方法)	到達目標値	実施後数値
コンパスを使ってひし形、三角形、平行四辺形などの作図をさせる。	3~6学年	図形領域の過去問題の平均通過率 (4~6学年)	35%	46.2%	正三角形、平行四辺形などの作図は目標の通過率を得られなかったもの、作図の精度が低かったり、コンパスを使う理由を理解していなかったりした児童が多かった。引き続き作図の問題に取り組んでいく必要がある。	図形領域の過去問題の平均通過率 (4~6学年)	40%	66.8%	コンパスを使って、ひし形、三角形、平行四辺形などの作図の練習するために、自作の問題を用意し、帯時間に繰り返し行った。	H30「基礎・基本」定着状況調査の図形領域の問題の平均通過率	45%	
計算のきまりや考え方を、言葉と式を使って説明できるようにする。	3~6学年	説明を記述する過去問題の平均通過率 (4~6学年)	20%	28.5%	算数の用語を使っていなかったり、説明が過不足だったりする児童が多かった。算数用語を理解させ、語形を示して、順序だてて説明する練習をさせていく必要がある。	説明を記述する過去問題の平均通過率 (4~6学年)	25%	40.3%	計算のきまりや考え方を、言葉と式を使って説明できるようにするため練習用プリントを作成し、帯時間に学習させた。	H30「基礎・基本」定着状況調査の説明を求める問題の平均通過率	30%	

平成29年度 指導方法等の改善計画について [理科]

廿日市市立宮園小学校

昨年度の課題と具体的に取り組んだ事項

【昨年度の課題】

- 「エネルギー」領域における複合的な設問の通過率が低い。
- 太陽と地面の様子との関係について考察し、それらを科学的な用語を用いながら文章で説明することが出来ない。

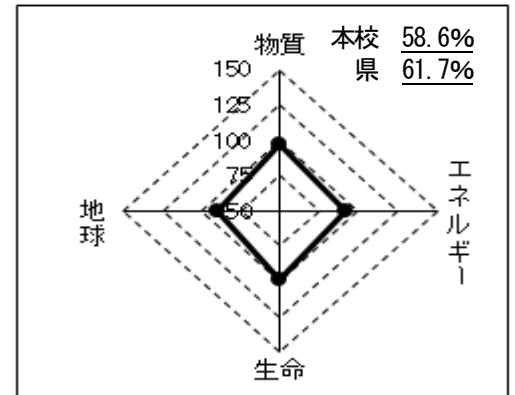
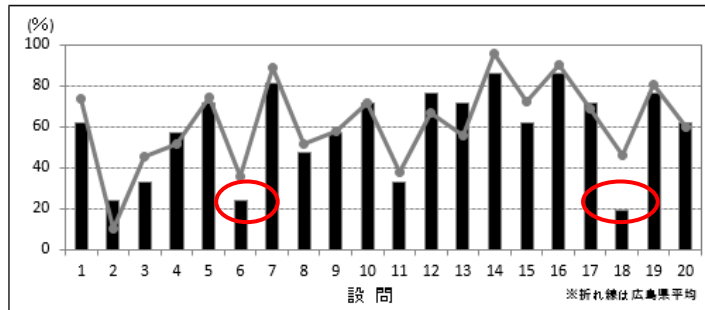
【取り組んだ事項】

- 基本的な知識・理解の定着を図るために、実験して分かったことを自分の言葉でまとめさせ、単元終了後も繰り返し復習を行った。
- 観察、実験において結果や表やグラフに整理し、予想や仮説と関係付けながら考察を言語化し、表現することを重視した授業を行い、ノート指導も行う。

	教科全体	タイプI	タイプII
本校	58.6%	67.5%	47.6%
県	61.7%	70.4%	51%

本校	%
全国	%
県	%

「基礎・基本」定着状況調査結果から



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

- ◎「エネルギー」領域の日光を重ねたときのあたたかさについて考察し、それらを科学的な用語を用いながら、文章で説明することができない。
(日光をかさねたときのあたたかさ 23.8%)
- ◎「地球」領域の太陽の位置と影が関係する学習の平均通過率が低い。
(太陽の位置と影の関係 19.0%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

- ◎ 観察、実験において結果を表やグラフなどで詳しく整理させ、予想や仮説と関係付けながら結論を捉える具体的な考察を考えさせる。考察を考える際は、実態に合わせて書き方を掲示し、自分でまとめさせる。また、考察したことを説明させる場をもつ。ノート指導を工夫して行う。
- ◎ 「地球」領域の学習において、観察を通して実感を伴いながら考えさせたり、説明させたりする。考察する際に、仮説と結果、結果と考察の関係をはっきりさせ、考えが説明できるように、ノートに整理させる。また、説明をさせる際には、話型など提示する。基本的知識・理解の定着を図るためのプリントを用いた復習を継続的に行う。

来年度の目標値

○「エネルギー」領域タイプIIの平均通過率を40%以上にする。

○理由を述べる設問の平均通過率を35%以上にする。

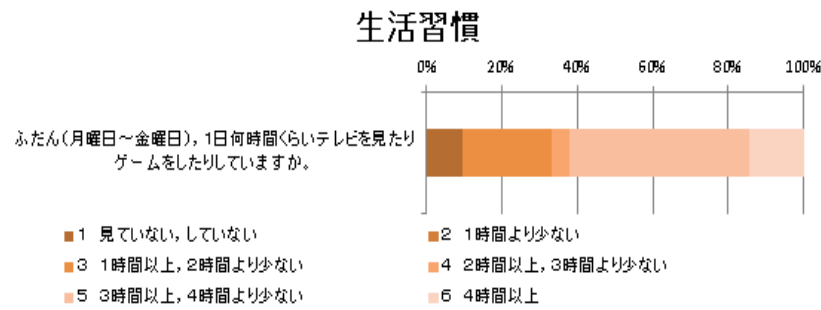
中間検証①(H29.12)

中間検証②(H30.2~3)

最終検証 (H30.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法	対象	成果指標 (方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標 (方法)	到達目標値	実施後数値	進捗状況・改善方策	成果指標 (方法)	到達目標値	実施後数値
観察、実験において結果や表やグラフに詳しく整理し、予想や仮説と関係付けながら結論を捉える具体的な考察を考え、根拠を説明できるように、ノート指導も工夫して行う。	3~6学年	過去の「基礎・基本」定着状況調査の「エネルギー」領域の理由を述べる問題の平均通過率 (5・6学年)	30%	44%	乾電池のつなぎ方を変えると電流が逆回り、モーターも逆回りは既知で説明できた。しかし、直列つなぎと並列つなぎという言葉を使い、車の走る速さと関連させて適切に説明できる児童は少なかった。現象を働きや時間などと関係付けながら調べることを通して実験の記録を整理させ、自分の言葉で現象を説明できるようにする。	過去の「基礎・基本」定着状況調査の「エネルギー」領域の理由を述べる問題の平均通過率 (5・6学年)	35%	34%	回路のつなぎ方で電流の力が変化することを説明する問題の正答率が低い。実験の結果を整理する際に、電気用図記号を使って図で表し、「直列つなぎ」と「並列つなぎ」という言葉を使って適切に説明できるようにする。	H30「基礎・基本」定着状況調査の「エネルギー」領域タイプIIの平均通過率	40%	
「地球」領域の学習において、観察を通して実感を伴いながら考えさせたり、説明させたりする。考察する際に、仮説と結果、結果と考察の関係をはっきりさせ、考えが説明できるように、ノートに整理する。	3~6学年	過去の「基礎・基本」定着状況調査の「地球」領域の理由を述べる問題の平均通過率 (5・6学年)	25%	34%	太陽の動きと影の関係について理解できていない児童が多い。原因と結果の関係を明確に説明させる指導を継続的に行う。	過去の「基礎・基本」定着状況調査の「地球」領域の理由を述べる問題の平均通過率 (5・6学年)	30%	43%	目標通過率は到達したが、理解している児童は半分以下である。地面にできる影の位置の変化と太陽の位置の変化との関係を説明する問題の正答率が低いため、原因と結果の関係を説明する話型を示し、継続してノート指導を行う。	H30「基礎・基本」定着状況調査の記述問題の平均通過率	35%	

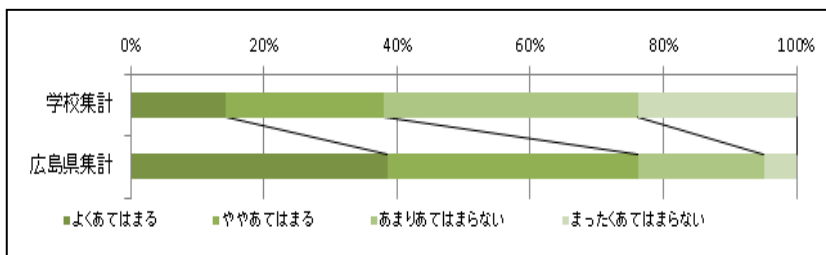
(1) 生活・学習



	児童の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
基礎・基本	ふだん(月～金曜日)、1日あたり3時間以上テレビ視聴やゲームをする割合が61.9%で県平均に比べ36.7ポイント高い。	平日も、家庭学習時間確保のため、日頃からメディア時間の短縮を呼びかける。家庭学習がんばり週間には、ノーメディア週間とし、チェックも行う。	全学年	3時間以上、テレビ視聴やゲームをする児童の割合、50%以下。	児童アンケート(全学年)	2月	34.2%	-27.7%で達成
全国	友達の前で、自分の意見を発表することが得意だという項目が、37.8%で、全国平均よりも、14.4ポイント低い。	グループ学習や、エンカウンターを取り入れ、自分の意見を少人数の中で、発表することから始める。	全学年	友達の前で、自分の意見を発表することが得意だという児童の割合45%	児童アンケート(全学年)	2月	62.0%	+24.2%で達成

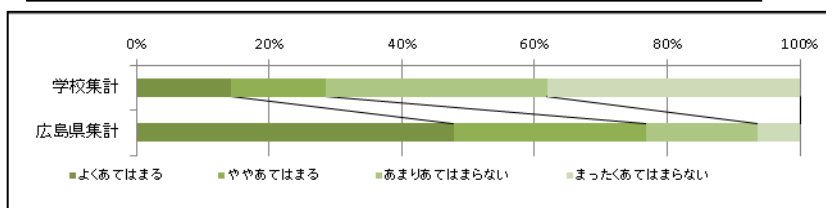
(2) 教科

国語の授業では、中心となる言葉や文を見付けたり、段落と段落のつながりに注意したりして文章を読んでいます。



	児童の回答についての課題(現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	基礎・基本 中心となる言葉や文を見付けたり、段落と段落のつながりに注意したりして文章を読んでいる児童の割合が38.1%で、県平均より38.3ポイント低い。	物語文や説明文の指導において、文の中で、中心となる言葉や文を見つけて書かせたり、主述の関係、指示語、接続語に注意しながら、段落と段落のつながりを考えさせたりする。	2学年以上	60%以上	児童アンケート(2～6学年)	2月	66.3%	+28.2%で達成
	全国 意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している児童の割合が48.6%で、全国平均より14.8ポイント低い。	意見などを発表する際に、結論を先に言うように指導し、分かりやすく伝える方法が身につくようにする。	全学年	70%以上	児童アンケート(2～6学年)	2月	52.6%	+4%で達成ならず
算数	基礎・基本 授業の中で、学んだことの振り返りをしている児童の割合が28.6%で、県平均より、48.4ポイント低い。	授業の流れを可視化できるように掲示したり、自己評価カードを使用したりして、授業で学んだことを振り返る時間を確保する。	全学年	50%以上	児童アンケート(全学年)	2月	78.0%	+49.4%で達成
	全国 授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う児童の割合は75.7%で、全国平均より13.4ポイント低い。	日常との関わりのある課題を設定し、日頃から、学習したことが生活の中でどのように使えるかを問いかける。	全学年	80%以上	児童アンケート(3～6学年)	2月	92.6%	+16.9%で達成
理科	基礎・基本 自分の考えや予想をもとに観察や実験の計画を立てている児童の割合が23.8%で、県平均より52.5ポイント低い。	仮説をもとに、どのようにしたら検証できるかを考えて実験の計画を自分で立てるようにする。	3学年以上	50%以上	児童アンケート(3～6学年)	2月	63.6%	+39.8%で達成

算数の授業の中で、学んだことの振り返りをしています。



理科の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。

